

# 《カトリック大和高田教会 お知らせ》

2025年3月2日

典 礼 暦	日 時 など
年間第8主日	3月2日 (日) ミサ <b>8:30</b>
灰の水曜日(大斎・小斎)	3月5日 (水) ミサ <b>19:30</b>
	3月6日 (木) ミサ 10:30
	3月8日 (土) ミサ 8:00
四旬節第1主日	3月9日 (日) ベトナム語ミサ <b>15:00</b>
	3月13日 (木) ミサ 10:30
	3月15日 (土) ミサ 8:00

## 【京都司教区】

●都教区といたしまして、2025年3月1日をもって、教区からお願いした新型コロナウイルス感染症についての措置を、すべて解除し、教会活動を2020年1月以前の状態に戻すこととします。(詳細はホール掲示板をご覧ください)

### ◎召命祈願ミサ

日時：3月28日(金) 午後2時～

場所：河原町教会司教座聖堂(聖年巡礼指定教会)

司式：大塚喜直司教

※山田神学生の朗読奉仕者選任式

侍者会参加小学生による侍者奉仕



## 【奈良ブロック】

●「カトリック奈良ブロックホームページ」がリニューアルされました。

※ブロックのミサ予定、柳本神父様の説教、教会学校プリントがスマホやパソコンで見ることが出来ます。

URL 「<https://catholic-nara.net/>」

右のQRコードをご利用下さい。

## 【大和高田教会】

◎灰の水曜日3月5日(水)の奈良ブロック教会の予定

「灰の式」はこの日のみです。都合の良い教会でお受け下さい。

大和高田教会 …………… 19:30

大和八木教会 …………… 10:00

西大和カトリックセンター 14:00

御所教会 …………… (なし)

大和郡山教会(英語ミサ)… 10:30

奈良教会 …………… 7:00

登美ヶ丘教会 …………… 19:00

富雄教会 …………… 15:00

◎四旬節黙想会を下記の通り予定しております。

ご復活を迎える準備のために、是非、ご参加下さい。

日時：3月23日(日)ミサ後、9時40分～12時30分

指導：シスターローマ(詳細は、掲示板ポスターをご覧ください)

●主日の日本語ミサ後に『聖年の祈り』を全員で唱えます。

◎「教区時報」「心のともしび」3月号が届いています。

◎「聖書の分かち合い」(Sr.ローマ)：3月6日(木)ミサ後

◆教会掃除当番

3月 2日(日)ミサ後：奉仕日(全員)、聖堂のワックス掛け

3月 9日(日)ミサ後：D地区

## 本日(3月2日)の聖歌

入祭	典	100	しあわせな人	奉納	典	177	わたしの心は 神のうちに喜ぶ
答唱	プ	{聖書と典礼}		拝領	典	46	神の注がれる目は
アルマ	プ	{聖書と典礼}		閉祭	典	400	ちいさな ひとびとの

【典：典礼聖歌、聖：カトリック聖歌集、平：平和を祈ろう、プ：プリント】

### 3月2日 年間第8主日 ルカ6章39～45節 師であるイエスが働いてくださる

今日の福音も先週に続く箇所です。マタイの「山上の説教」もルカの「平地の説教」も、さまざまな機会にイエスが語られた教えがまとめられたものだとされています。とくに今日の箇所の内容は、四つの教えが列記されていると考えられます。それぞれの教えの部分について考えてみましょう。

第一の教えは「盲人の道案内のたとえ」です。目の不自由な人を揶揄しているようにも思えますが、ファリサイ派の人々や律法学者のような人々が、神の思いを理解せずに指導し、律法を守れない人々を見下していたことを表していると考えられます。道を知らないのに「大丈夫だ、俺について来い！」と先導して二人とも迷ってしまうこともありますね。昔、植木等が「♪金のない奴あ俺んどこに来い！俺もないけど心配するな」と歌っていたのを思い出します。ということはファリサイ派の人たちは無責任男ですか。彼らの立場からすれば、律法の細かい規定にこだわらないイエスこそが無責任男だと思うのでしょうか。この教えは弟子たちに向けられたものだと考えられるので、自分の思いではなく、神の思いを大切にしながら人々と歩みなさいという意味ではないでしょうか。

第二は短い部分で「弟子は修業を積みば師のようになれる」です。修行というと千日回峰行や冬の滝行のようなきびしいことを連想するかもしれませんが、迫害を恐れずにイエスに従うということによって、ともにおられるイエスが働いてくださるということだと考えられます。偉くなれるというよりも同じ働きを与えられるということですね。

第三は「おがくずと丸太のたとえ」です。よく「自分の欠点には気づかないが、人の欠点は目につくものだ」と言われますが、むしろ、イエスは「人を裁いてはならない」ということを言いたかったのではないのでしょうか。「あなたの目のおがくずを取らせてください」と言うとき、その人は「わたしは正しい」と考えています。自分と相手を比べて自分のほうが勝っていると思っているのです。以前にも書いた、「お前が悪い、と指さす三本は自分を向いている」というあるお寺の掲示板の言葉は、今日のたとえと共通する教えだといえるでしょう。

最後の部分は「木と実のたとえ」です。「よい木はよい実を結ぶ」と言われると「よい木はよい人間」「悪い木は悪い人間」と考えてしまいがちですが、そう考えると人の値打ちを決めることになり、前の教えと合わなくなります。最後に「心からあふれ出ることを語る」と言われているので、木は心、実は言葉や行いということになります。

これらの四つの教えをつなぎ合わせると、自分の思いではなく神の思いを求めながら、謙遜の心をもって人々とともに歩むとき、師であるイエスが必ずともにいて働いてくださる、ということなのではないでしょうか。これはイエスの弟子だけでなくわたしたちにも与えられた使命として受け止めることができるでしょう。

(柳本神父)